

山名・山域	頸城山塊 雨飾山 荒菅沢コース
山行目的	秋の雨飾山を訪ねる
山行期間	2016年10月14日(夜行)～10月16日 夜行一泊二日
参加者	3名

ルート、コースタイム

10月15日 940 雨飾高原キャンプ場(登山口) —1300 幕営手続き

**10月16日 620 登山口—730 荒菅沢(あらすげさわ) —835 笹平—900 雨飾山頂上(双耳峰) 915 下山—
—1040 荒菅沢 1100—1155 登山口**

【 雨飾山今昔 】

30年以上前の話ですが、当時は「涸沢ヒュッテ」のオーナー会社「朋文堂出版」が「雨飾温泉(今の雨飾山荘)」を営んでおり、その経緯を知り初めて「妙高・火打」の向こうにある雨飾山の存在を認識したものです。

新長県境方面ではクライマーに人気の岩山「明星山」の方が有名でした。雨飾山はアクセスが悪く「一部の岳人を除き、関東からわざわざ行くにはよほど強い動機が必要だった」様に思います。

その後100名山ブームの影響で一躍脚光を浴び、取付きへのアクセスも格段に整備され現在の盛況に至っています。

登山道を行く登山客の人数に驚き、当に隔世の感がありました。今回は「100名山のブランド力」を再認識した山行でもありました。

【 雨飾高原登山口から雨飾山 】

快晴、正に秋晴れの登山日和に感謝しながらの出発となりました。岩魚の潜む沢沿いの木道から始まり、ある処から「ここから登山道だ」という感じで急登が始まります。一時間程の登りの後、若干の下りで荒菅沢に着きます。ここからの布団菱(大岸壁)と全山紅葉のボリューム感は圧倒的でした。

再度沢から離れるように急登が始まり、今度は岩稜帯も現れますが、登山道はよく整備され、危険な処はありません。大勢の登山者と繋がって歩き、一時間で笹平に出ます。穏やかな草原地帯で妙高・火打、焼山の山々や日本海の遠望が見事でした。

暫くだらだらと歩いた後、頂上直下の急登に差し掛かります。渋滞の中、信号待ちの要領でジリジリと標高を上げ、「ひょい」と頂上の一角に到達しました。流石に360度の展望は素晴らしく、祠のある頂上は老若男女でごった返していました。

2,000m級山岳の10月、やはり風の影響で頂上での寒さは結構堪えます。小休止の後下山にかかりましたが「登りの登山者」との交互通行でゆるゆると下ることになりました。

【 小谷側登山口の様子 】

- ・登山口(雨飾高原キャンプ場)までの車道は舗装されよく整備されています。落石等の懸念も無いようです。
- ・雨飾高原キャンプ場は1人700円+施設使用料300円(管理棟内トイレ、洗面施設、シャワー) *施設使用料は任意
- ・テシ場は約30張可。概ね平坦で周囲の環境から風も遮られています。
- ・雨飾荘 内湯700円 徒歩数分の露天風呂(清掃協力金・寸志)但しベテラン曰く「夏はアブがすごい」そうです。
- ・最後に登山客層ですが、老いも若きも歩き慣れたマナーの良い人が多かったように思います。

以上